



針江生水の郷委員会

いつまでも青く輝く地球であるために
めぐり巡って来る、清い命育む生水を守り続けたい。

生水の郷委員会事務局
TEL/FAX 0740-25-6566
http://www.hariekabata.com
E-mail shozunosato@lapis.plala.or.jp

**新役員
紹介**



よろしくお願ひします。

会長:山川 悟

- 副会長:大石 幸夫
- 副会長:石原 立憲
- 副会長:足立 亨
- 副会長:高橋 正通
- 副会長:海東 郁子
- 案内部:福田みつえ
- 環境部:高田 一雄
- 推進部:清水 裕之
- 情報部:三宅 進
- 事業部:水田 正彦

あいさつ

素晴らしい故郷を後世に継承

会長 山川 悟

◆2004年「里山命巡る水辺」より始まった生水の郷委員会は、5年間の活動が過ぎました。会員の皆様のご協力、ご支援のお陰で、広く世界に発信することが出来ました。5年たっても訪問客は減ることなく、活動はどんどん広がってきました。針江地域は、きれいな湧水(生水)があり、針江大川や張り巡らされた開水路は、区民の皆様の掃除により、美しい景観を保っています。有機農法や減農薬農法で、琵琶湖にきれいな水を流す取り組みや、学習の場として魚に優しいプロジェクト(ピオトープ)も観察会の会場として利用されています。また、魚のゆりかごでもあり水の浄化に役立つヨシ群落の保全は、市と連携してヨシ刈りツアーとして取り組み、藻刈りツアーや少人数では手が着かない大川下中島の清掃活動も会として行っています。先人が残してくれた里山・湧水・水路・田園・琵琶湖岸は、生活文化としての価値を持っています。これらの自然や生活文化が、どのような経緯でつくられてきたかということ私たち自身が知り、また外から訪れる人たちにそれを見てもらうことでさらに深く理解し、意識して活動することにより、このすばらしい故郷を観光化することなしに後世に引き継いでいきたいと考えています。

**命の水と健やかな子どもたち
そして人の優しさ、これこそが針江の宝**

相談役 美濃部 武彦

◆平成16年5月に針江生水の郷委員会が発足し、6年目を迎えました。針江の皆様の絶大なご協力を頂いていること、心より感謝を申し上げます。素人ばかりの集まりでしたが、区民の皆様、会員の皆様と共に針江を元気にしよう、守ろうと様々な取り組みをしました。今や堂々と水環境について世界に発信する事が出来ました。安部元総理大臣来訪・エコツーリズム全国大会<特別賞>平成水百選等が思い出されます。生水は、弥生時代から先祖より受け継がれて守り続けました。今の私たちは、この命の水をしっかりと次世代へと継がねばなりません。日本の原風景を残す針江浜ヨシ群落・農地・生きもの・かばた文化を2008年に針江里山(水)博物館構想として、立ち上げました。そして、この素晴らしい景観・水文化を守るために、文化的景観保存の国指定構想プロジェクトも予定されています。今後も針江区長・区役員の方々もしっかり議論をし、針江の将来の夢を築いて行こうではありませんか。長い間微力ながらも、至らぬことで皆様にご迷惑をおかけしました事お詫び申し上げます。針江生水の郷が一層の輝きが増すよう心から祈願し、私の辞意のあいさつとさせていただきます。

「川端」のある暮らし

水も宝なら、ここで暮らす人も宝である。

中学校道徳の教材本



「川端」が教材本にのっています。

区の皆様また嬉しい知らせです。日本文教出版株式会社から、中学校道徳「あすを生きる3」の教材本に『「川端」のある暮らし』と題して、掲載されています。全体のページ数は160ページ、最初の6ページの紙面(写真:中島・正伝寺のかばた・かばた道の町並み・お宮さんの前)に、文章はとても優しく、心に残る文字で綴られています。そして何よりも、小さい頃から家や地域の暮らしを通じて、水を大切にすることを身につけていること、生活の知恵(夏季かばたを利用して冷やす果物・野菜・麦茶)、郷土を愛する意識、忘れかけていた共同社会の姿が綴られています。コミュニティが希薄化している今の社会に、針江区は昔から川端を通して、自然と人の交わりを学んでいるのです。普段は何も感じませんが、訪れる人々が示唆することで、針江の良さがわかるのでしょう。教材本に掲載されるのは、光栄なことです。



重要文化的景観 ってなに?!



◆新旭地域のヨシ群落と針江大川流域やかばた文化をいつまでもこの状態で、次の世代に引き継いで保存活用していきましょうという国の選定を受けるプロジェクトのことです。

つまり、霜降・針江の景色は国の選定を受ける価値のある景観なのです。◆高島市が事務局となり、京大、滋賀県立大、滋賀大、立命館大のそれぞれの先生方が河川・地下水、魚類、植物・鳥類、歴史、建造物、漁法・漁具、水利用の各分野について調査されており、メンバーには該当する地区の代表の方が入っています。去る5月24日に中間報告が行われました。6月からは住民の方を対象とした説明会が開催される予定です。



6月 生水の郷スケジュール

放映日	テレビ局	放送名
6月6日(土) 午前8:00~9:30	読売テレビ 10チャンネル	ウェイクアップ
6月7日(日) 午後11:15~	朝日放送 6チャンネル	すてきな宇宙船 地球号
6月26日(金) 午後9:00~	BS朝日	すてきな宇宙船 地球号

私たちの取り組み

私たち針江生水の郷委員会が、めざしている考えの中によく使う言葉があります。それを少し説明しますと・・・

**Q：〈生きもの〉〈かばた文化〉〈ヨシの群落〉
どういうふうに、活用していくのですか？！**

エコツーリズムとは・・・

- 「自然環境の保全」
- 「観光振興」
- 「地域振興」
- 「環境教育の場としての活用」



エコツーリズムによって

■地域ぐるみで自然環境や歴史文化など、地域固有の魅力観光客に伝えることにより、その価値や大切さが理解され、保全につながっていくことを目指していく仕組みです。

■観光客に地域の資源を伝えることによって、地域の住民も自分たちの資源の価値を再認識し、地域の観光のオリジナリティが高まり、活性化させるだけでなく、地域のこのような一連の取り組みによって地域社会そのものが活性化されていくと考えられます。

■観光によってそれらの資源が損なわれることがないよう、適切な管理に基づく保護・保全をはかること。

Q. どういう風に町は変わるの？！

①私が変わる



◆自然の美しさ・奥深さに気づき自然を愛する心が芽生え、地球環境問題や環境保全に関する行動につながっていく。



②地域が変わる



◆地域固有の魅力を見直すことで、地元自信と誇りを持ち生き生きとした地域になる。



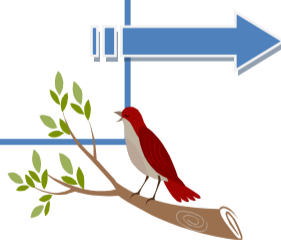
③そしてみんなが変わる



◆私たちの自然や文化を守り未来への遺産として引き継いでいく。
活力ある持続的な地域となる。

エコミュージアムとは・・・

- 「生活・環境博物館」
- 「地域まるごと博物館」



■エコミュージアムとは、ある地域全体を博物館と見立てて、地域を学習し、交流していく施設と活動です。

■エコミュージアムを直訳すれば ecology museum(生態学博物館)になります。

■野外博物館を創設するにあたって「家の博物館」という概念を基本にします。

Q. 博物館ではないのですか？！



従来型

■特別な収集品を保存し、展示することで狭い範囲の文化を継承し、伝承していくものになっています。



野外型

■その地域の生活そのものを保存・展示していくことで、自分たち住人自身が、**地域を知る。**

■自分たちの生活を知り、興味をもつことによって、**地域の活性化を図り、地場産業の発展をめざすことがエコミュージアムの目的になっています。**